

# 「いとぐるま 第8号」より

2017年12月発行



## 里親のつぶやき 《里親T》

今年はこのアンパンマンのクリスマスケーキにするからネットで予約してね。妻からイオンのチラシを渡されて1週間が経つ。今日、妻に催促された。早割り特典のメ切でさえまだまだ先なのにと思いつつも妻がウザくてスマホを開いた。えっ!? 予約受付の画面上には無情にも「完売」の表示。

いないいないばあの公開収録チケットが取れなかったのは、仕事のタイミングで電話予約受付の開始時間に遅れてしまったからだ。しまじろうコンサートの先行予約が当たらなかったのは、抽選で運がなかったのだ。そんな過去の（どうやら全て私の失態らしい）話まで後ろから愚痴が聞こえ始めたが、妻よ、しかし今はそんな場合ではない。慌ててネットで検索し、どうにか別のスーパーで同じケーキを見つけて予約することが出来た。

お子さま向けビジネスの世界を甘く見てはいけない！私はケーキやチケットの争奪戦に敗北し、その苛酷な世界の洗礼を受けた。妻や子どもの依頼に応える為には、何よりもそのミッションを最優先事項にすべき様だ。自身の都合なんてそんなものは全て二の次なのだと学んだ。

さて今年のクリスマス。家から5分のスーパーでお目当てのケーキが予約できなかった私は、4駅先の戸塚駅にあるスーパーまで休日にアンパンマンのケーキを受け取りに出かけるのである。わざわざそこまでしてパパがケーキを買ってくれたのよ、などと感謝やねぎらいの気持ちが妻に存在しない事など承知の上だ。一度貼られた「使えない夫」のレッテルは簡単には剥がせない。コッチだって努力してるよ、の泣き言も通用しない。

しかしそんなことはどうだっていいのだ！子どもと一緒に過ごすクリスマスが我が家にやって来るなど夢のような幸せではないか。子どもの為のクリスマスケーキを持って東海道線に揺られるそのひとは、きっと私にとって幸福な瞬間となるに違いない。アンパンマンのケーキを見て無心に喜んでくれるだろう子どもの顔を思い浮かべて・・・。





## 里親のつぶやき 《里親 X》

今から一年前に実母の生活の変化から子供を引取りたいと児相に連絡があった。今の生活は長く続かない。あと数か月で今隣でテレビを見ている子どもが、実母の元へ引き取られてしまう。この作文を書くにあたって今の私の心境はいろいろな思いがあり、里父としてあるべき姿がなんなのか考えてしまう。只、今は確かにこの子の父親だ、里父とか里親とか細かい表現は子供に対しては関係ない。子供も私の事をお父さんと思っている。自分で云うのも変だが、子供からは信頼され優しいお父さんとちょっと怖いお父さんを子供との生活の間で確立し出来上がって来たと思う。

子供も良い事や悪い事が分かり始めて、悪い事をするそれを隠す事もある。責任を『お父さんのせいだよ』と云って人のせいにする事も大分増えて来た。また、言葉が上達した事で幼稚園でのいろいろな子供の出来事や友達同士のことを楽しそうに話す姿は、幼児から少し脱し、お兄ちゃんになった成長さを感じさせてくれる。同時に私も子供と一緒に日々暮らす事で、子供と寄り添い親になる為の教えを得て親になる事が出来て来たと思う。子供の大事な未来を考えながら一緒に父親（親）として成長し、互いに希望を持ち幸せな家庭を築く事が一番の願いだっただ。

私達夫婦は初めから特別養子縁組を希望し里親になった。今でも基本その考えは変わらない、それが子供を長期にわたり育てるには一番良いと私は考えている。長きにわたり子供を育てるには、親としての責任と子供に対する変わる事のない愛情が必ず必要だからだ。この問題が起きてからは、自分の心にいつも最悪の事を考える日々が続いた。沢山の人のいろいろな相談やアドバイスを受けた。結果、法律の手前何も出来ない。里親には何の権限が無いと云われ、『本当にお気の毒様』で片付けられたら無念だ。こんな結果になるのなら、最短で特別養子縁組手続きをしておけば良かったと思う。子供の気持ちなど関係なく法律の範囲内で事を進めていたら、違った形になったかもしれない。でも私は子供を私物扱いしたくない、生まれた時から一人の心を持った立派な人間だから。

どんな子であれ生まれて早いうちに家庭環境の中で子供と親が一对一で育てる事が、信頼と愛着を生み、心が豊かになる事だと思う。最後に一緒に過ごした日々を忘れずこれからも子供にとって父親であり続けたいし別れは云わない。